

テーマ：『 自然に関わり確かな考えを創る子どもが育つ総合的な学習の時間の指導』

福岡県古賀市立 小野小学校

Tel. 092-946-2331 担当者： 蔵本 幸生



■実践内容:単元名「知ろう、守ろう、わたしたちの川」

〈つかむ段階〉本校では、これまで、4年生を中心に、ホタルが増える環境づくりを行ってきている。また、“古賀市ホタルを守る会”の方々も熱心に活動をされている。このような取り組みがなされている中で、「学校前の米多比(ねたび)川はホタルがどうして増えないのか。」という課題を提起した。そこで、子どもたちは、米多比川の様子を観察し、①ごみが多い。②生活排水の流れ込みが多い。③ホタルがすみかをつくれぬ。等の予想を立てた。また、ホタルの会のみなさんから飼育方法の教授と共に、「ホタルがもっと増えるようにできることを行ってほしい。」という動機付けをしていただいた。(写真左;ホタルの会の方のお話)そこで、子どもたちは、米多比川を守る活動を行うことに決め、交流しながら活動内容を決定した。〈たかめる段階〉活動内容は、大きく2つである。一つは、ホタルの幼虫を大きく育てる活動であり、もう一つは、川のごみ拾いを継続する活動である。始めに、プロジェクトⅠとして、ホタルの会の方々に、ご指導いただき、毎日の餌やりや水かえ、水温管理等を行い、200匹ほどの幼虫を育てることができた。(写真右;ホタルの幼虫の放流)次に、プロジェクトⅡとして、ホタルのすみかをつくるために、水質検査をし、米多比川は、ホタルが住みやすい環境ではないことをつきとめた。そこで、ごみ拾いを行っていった。〈いかす段階〉さらに、プロジェクトⅢとして、このような一連の活動を多くの人に知ってもらうために、次のような取り組みを行った。①「野幸山幸小野まつり」で来場者への呼びかけ。②ビデオに自分たちの活動の様子を収録して、市内の全小学校の子どもたちに視聴してもらう。③ちらしやパネルを制作して、市内の多くの人に訴える。このような活動は、反響が大きく、米多比川の状況やホタルについての関心を高めることができた。

■実践成果:

子どもたちが、自ら働きかけを行ったことで、自然に対する愛着を持ち、生命を大切にする心の育成につながった。また、一連の活動により、学校前に飛ぶホタルが増え、有用感・効力感を味わうことができた。

■実践ポイント:

総合的な学習の時間において次の二つの手立てをとれば、分かる力・できる力・つなぐ力が身に付き、豊かに生きる子どもを育むことができる。①子どもたちの学校生活、地域生活、家庭生活における思い・願い・希望・夢から生じる目的を取り入れて題材を開発する。②「つかむ」「たかめる」「いかす」の各段階に吟味活動(自己決定した行為の適切性について自己に問う活動)を設定する。

その他、自然に親しむ活動として、5年生の「米づくり」や全校での「栽培活動」にも取り組んでいる。